

	<p style="text-align: center;">作 業 標 準</p> <p style="text-align: center;">感圧型プリズム型反射シート による既設標識の部分修正作業</p>	<p style="text-align: center;">スリーエム ジャパン株式会社</p>
<p>〔適用範囲〕</p> <p>この作業標準は、部分的な修正を目的として、感圧型プリズム型反射シートを、既に建植されているアルミニウム製標識の標識面に貼り付ける作業について、推奨する方法を述べる。</p> <p>使用する感圧型プリズム型反射シートは、下地が透けない程度に十分な下地隠ぺい性を有するものを使用すること。</p> <p>〔使用工具〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シートの切断 : はさみ、大型カッターナイフ、小刀、鋼尺 2. 洗浄用品 : ノルマルヘプタン(洗浄液)、綿ウエス 3. 温度測定 : 表面温度計 4. 貼り付け用具 : 仮止めテープ(マスキングフィルム)、スキージー、ハンドローラー、ウエス 5. その他 : サンダー、ノミ、カッターナイフ (貼り付け下地となる反射シート面にひび割れや変質が見られる場合、反射シート層を除去するために使用) <p>〔注意事項〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梱包・輸送方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ロール: 必ず直径 150mm 以上のコアに巻き付けること。 ・カットシート: 1 枚ずつ保護紙で表面を保護し、積み重ねる限度は 10 枚とする。 2. 取り扱い方法 <ul style="list-style-type: none"> ・感圧型プリズム型反射シート は折り曲げないように注意する。 ・感圧型プリズム型反射シート は平らなきれいな所に置くようにし、表面に硬いものにて圧力をかけないようにする。(圧力のかかった部分が白く変色する恐れがある。) ・印刷された感圧型プリズム型反射シート は、印刷面同士を接触させないようにする。(インク同士が密着する恐れがある。) 3. 貼り付け作業時 <ul style="list-style-type: none"> ・感圧型プリズム型反射シート の接着材層が基板面や他シートの接着剤層に接触すると、貼り直しが困難になる恐れがあるため十分に注意すること。 ・貼り付け時の気温、標識板温度及びシート温度は 10℃以上が望ましい。 ・降雨及び風が強いときの作業は避けること。 <p>〔作業手順〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シート加工 <ol style="list-style-type: none"> ① シートの切断 <p>直線: 鋼尺を切断部に当て、シート表面より鋭利なカッターナイフで切断する。</p> <p>曲線: 鋭利なはさみで切断する。</p> ② 修正標識の作成 <p>修正標識は下記により予め工場で製作する。</p> <p>印刷: 3M™ 885N(黒色)インクを使用し、詳細は作業標準 TCM-S-09 を参照のこと。</p> <p>切り貼り: 文字、矢印部を切り貼りするときは、感圧型プリズム型反射シート、又は感熱型 HIP が使用できる。</p> <p>(感熱型 HIP は 感熱型 HIP の作業標準に従う。)</p> <p>修正標識1枚の面積は 0.5 m²以内とし、ロール幅を超えない範囲とする。</p> <p>やむを得ず修正標識を分割で製作する際、感圧型プリズム型反射シート を重ねずに端線を継ぎ合わせるように製作する。</p> 		

2. 貼り付け方法

- ① 貼り付け面を洗浄用品にて汚染や異物を取り除き、十分に乾燥させる。
このとき洗浄液は少量の綿ウエスに染みこませて使用してください。
- ② 貼り付け下地となる反射シート面にひび割れや変質が見られる場合サンダー、ノミ、
カッターナイフを使用して反射シート層を除去し、アルミニウム面を露出させてください。
- ③ 貼付位置を計測して作図する。
- ④ 貼り付け基板の表面温度を、表面温度計にて測定し確認する。(表面温度は 10°C以上が望ましい。)
基板表面が濡れている場合、よく乾燥させて後に貼り付けを行う。
- ⑤ 感圧型プリズム型反射シート を基板の作図の位置に合わせ、マスキングテープにて数ヶ所仮止めを行
う。(図-1)
- ⑥ 貼り始める端のテープをはずし、感圧型プリズム型反射シート シートのライナーを約 100mm 剥がし、
柔らかな綿
ウエス、スキージー又はハンドローラーにて圧着しながら貼る。(図-2)

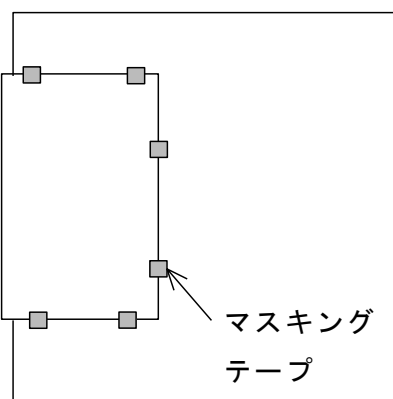


図-1

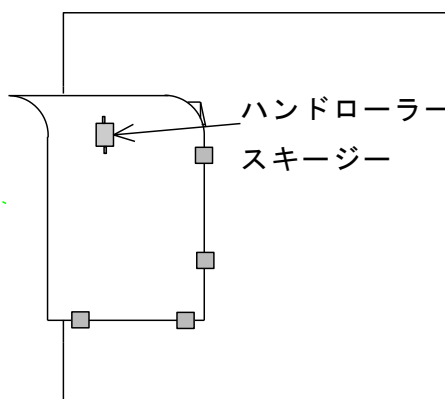


図-2

- ⑦ 仮止めのマスキングテープを全部剥がす。
- ⑧ 残りのライナーを徐々に剥がしながら、柔らかな綿ウエス、スキージー又はハンドローラーを使用して
圧着しながら貼っていく。この時、貼り付け面と感圧型プリズム型反射シート が 10~20°程度の角度を
保つことが
望ましい。(図-3)

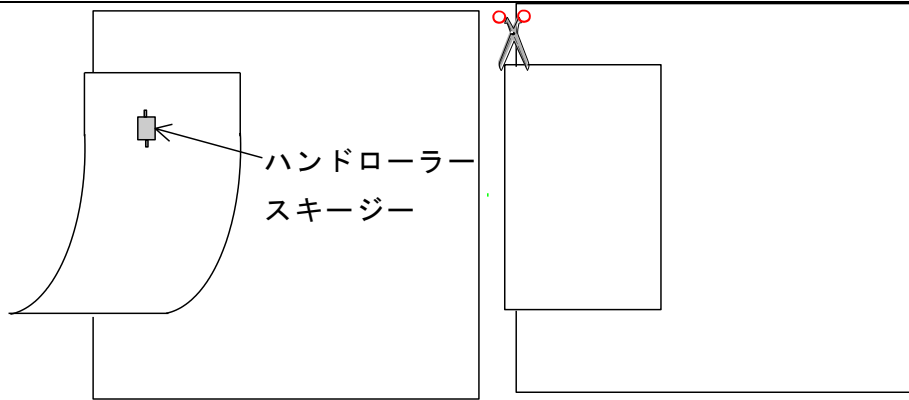


図-3

図-4

- ⑨ 貼り付け面と感圧型プリズム型反射シート の間に、浮きがないかを確認する。もし浮きがあれば、ウエスやローラーにてよく圧着する。
- ⑩ 端部に出ている感圧型プリズム型反射シート をカットする。感圧型プリズム型反射シート の上から基板に合わせてカッターを当ててカットする。(図-4)
- ⑪ 必要に応じて 3M™ エッジシールテープ (PV1004) を修正標識の周囲に貼り付ける。エッジシールテープ の貼り付けは、標識の設置される場所が、物理的衝撃(除雪時の氷雪の衝撃、積雪による埋没、強風等)を受けると判断される場合、必要であるものとする。
- ⑫ 貼付下地に切り貼りで文字や矢印部が設けられている場合、修正標識は、その端部と切り貼り文字や矢印部の先端部の間隔が、少なくとも 60mm 確保されているものとする。(図-5)

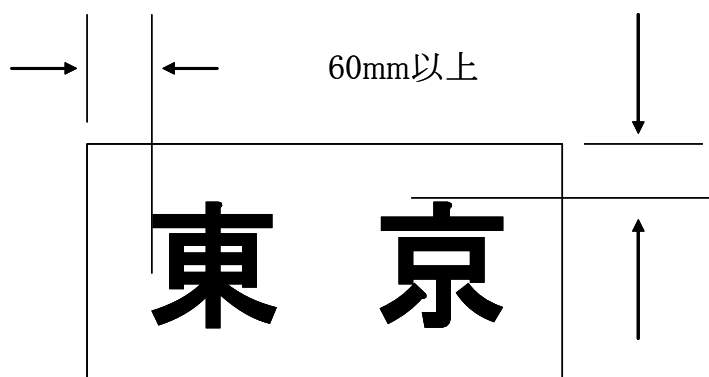


図-5